

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500819		
法人名	医療法人社団 誠道会		
事業所名	グループホーム 菜の花		
所在地	岐阜県各務原市鵜沼東町6-8-1		
自己評価作成日	平成22年10月7日	評価結果市町村受理日	平成22年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170500819&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家での生活の継続」を心がけ、利用者様1人ひとりの意向、自由を尊重し、その方のペースで暮らす事ができるよう支援し、日常生活を継続することが、リハビリと考え、歩く事、話す事、用事をする事などの継続・維持を大切にしています。又同地区にクリニック、介護老人保健施設あり、医療と介護の両面から利用者様を支える体制が整っています。今年度は、地域交流を目標とし、近隣清掃や地域の行事の参加にも積極的に参加し地域交流を深めれるように、努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「家での生活の継続」の理念の下、職員が一丸となって利用者が笑顔で暮らせるよう支援している。自宅での「普通の暮らし」をホームでも継続させることを目標にしている。職員は、言葉と心で、利用者一人ひとりと向き合い、そのらしさを見出している。ホームは交通量の多い国道沿いに建てられているが、職員と利用者が信頼関係を築くことで、不穏な行動もなく、当たり前のように玄関の施錠をしなくて暮らすことができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回の職員ミーティング、毎日行うカンファレンスで、情報の共有、理念を賛同している。	「家ででの生活の継続」の理念を、毎日のミーティングで確認し、共有している。コミュニケーションを図りながら「家族」に近づけるよう、笑顔で暮らせるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、地域の喫茶店へモーニングを食べる為に、主に歩いて行っている。8月より近隣清掃活動を行っている。又近くのスーパーに利用者様と買い物に行っている。	週1回、近隣の清掃活動を利用者とともに実施している。散歩の際にはごみを拾い、近隣の環境整備にも取り組んでいる。地域での活動を通して交流が盛んになり、ホームへの理解を得られるようになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事(運動会、福祉フェスティバルなど)に参加し、出かける機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、利用者様も参加され意見交換されている。又責任者以外の職員も積極的に会議に参加している。	市担当者・民生委員・地域包括支援センター職員・利用者・利用者家族が参加して2ヶ月に1回開催されている。地域に積極的に出て行ったほうがよいとの助言により、近隣の清掃活動を実施した経緯がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に運営推進会議を開催、現在の状況や取り組みについての意見交換、アドバイスを頂いている。	運営推進会議開催時だけでなく、随時、様々なことを相談し、助言を得ている。地域とのつながりを持つ方法を相談した際には、地域の運動会への参加などの助言を得て実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状拘束は行っていない。薬物等による沈静が必要と考えられる場合、医師の指示のもと十分なアセスメントと記録を行っている。	門扉や玄関を含め、施錠は行っていない。自宅での生活に近づけることに努め、拘束しないことや自由に行動できることが、当たり前の支援として実践されている。	職員は、これまでの介護経験から身体拘束をしないケアが行われているが、今一度、身体拘束についての法的根拠や指針を学習し、更に理解を深めることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は研修には参加していない。日常生活のなかで顔の表情などに変化がないか注意し、入浴時に痣など無いか職員皆で気をつけて観察するように努めている。		

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ相談等は無いが必要であれば相談、援助を行ってほしいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	キーパソンになる家族を中心に、契約書等を納得されるまで説明している。不安、質問があれば常時説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回家族会を開催、意見交換をしている。玄関先には、意見箱を設置し運営のご意見を頂いている。	日頃の会話や面会時・家族会開催時に利用者や家族の意見を聞いている。孤独を味わうことがないように寄り添ってほしいと要望があり、一日の活動を見直し、さらに寄り添うケアを実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月に行われている職員ミーティングで、疑問点意見を十分に話し合う機会をもうけている。必要であれば管理者と職員が話し合う機会を持つようにしている。	月1回の会議や毎日のミーティングで、意見や提案を元に話し合っている。決まったことは即実行できるよう管理者が手配や準備をしている。職員の意見が活かされ、小学生や幼稚園児がホームを訪問するようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の得意とする事を把握し、個性を考慮しながら年間業務担当者を希望により決め、それぞれの業務に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の他、講演などに積極的に参加を勧め、その内容に対する伝達を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設のグループホームと情報を共有し、共有した内容をカンファレンス時など職員に伝えたりしている。又防災訓練をデイサービス、小規模と合同で行う事により協力意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時本人の希望を聞き、介護計画書を作成している。又日々利用者の表情やコミュニケーションを多く取る事で対応している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、ご家族に要望、希望を聞き、その後も見直し介護計画書を作成、ご家族に確認して頂き意見を取り入れている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	達成目標を明確にし個々にあった介護計画を作成に心がけている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯干しや、たたみ、花の水やり、食事作りなどを共に行い、多方面に活躍して頂いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の新聞や手紙等で状況を家族に伝えている。面会時など最近の様子を伝えたり、居室やリビングでゆっくりくつろいで、過せるように配慮を心がけています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方に外泊、外出を呼びかけ出来る限り家での生活のつながりを途絶えないように配慮している。	地域に出て活動することで、地域の人が気軽に寄ってもらえるようになった。家族と同じ時間を過ごすことができるような支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様のもてる力を活かし、他入居者の出来ない事をカバーできるように職員は働きかけている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の際は、十分に話し合い、今後の事も含めた相談援助をしている。退去後も、気軽に相談できるように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時利用者様の希望、性格、習慣など聞き出すようにしている。又本人の自己決定を大切にし、本人の自己決定が無理な場合は自分自身に気持ちを置換え判断している。	日頃の会話や行動・表情などから一人ひとりの思いや意向などを聞き取っている。月1回の会議や毎朝のミーティング、申し送りノートの活用などで職員全員が共有できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人のカルテにバックグラウンドアセスメントや基本調査票をファイルし閲覧できるようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日常生活から状態の把握に努め、職員同士の相談又医療機関への相談を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に家族、本人からのアセスメントを行い、入居後も生活記録より個々の状態を把握するようにしている。	日頃の会話や行動を通して一人ひとりの状態を把握している。利用者が笑顔で不安なく暮らせるよう、医師の意見を取り入れ利用者や家族、職員が話し合い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に一回のカンファレンスや申し送り時に情報を共有しケアについて話し合っている。そこの内容を元に介護計画作成に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設での行事での交流や母体であるクリニックの協力で法人全体で利用者を支えている。		

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーに出かけたり、喫茶店に出かけたりしている。今年は小学校の運動会に見学したり近隣の散歩など地域での生活を大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関しては法人内のクリニックに受診をしている。希望があれば以前からの医療機関での受診も可能である。又専門病院での受診が必要な方は、紹介状を持って受診して頂いている。	利用者が希望するかかりつけ医と関係を築き、適切な医療を受けられるよう支援している。受診時や体調不良時などは連絡を取り指示を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に往診を取りいれている。又看護師が利用者様の状態を把握し必要時に適切な指示、指導をし早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に関しても今までの状況や、入院に至るまでの経緯を書面として提示している。又退院時に関しても必要な情報を頂くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が変化した場合、家族や本人と話し合いのばを設け今後の意向や事業所として出来る事、出来ない事を明確にする事で本人、家族が望む適切なケアが出来る体制を作っている。それに伴い、必要であれば他施設の協力も依頼している。	利用者・家族の意向や医師の意見など十分に話し合い、その都度検討している。ホームとして出来ることと出来ないことを明確し、納得を得た上で、出来る限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間看護師への連絡体制の整備。又AEDを設置年に1回程度は取り扱いの勉強会を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回は避難訓練を実施し避難方法等を確認周知している。又緊急連絡網を作成する事で協力体制を整えている。	年2回、夜間の火災を想定した避難訓練を、昼間に実施している。法人内の協力体制が整っている。今後は地域の協力体制を整え、地震や水害を想定した訓練を検討したいと考えている。	地域との協力体制と自然災害時の訓練を運営推進会議などに諮り、計画実施させることを期待したい。

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時には、ノック、声かけをしている。又必要に応じて居室で1対1で話したりプライバシー保護のマニュアルを作成し対応している。	人間関係のストレスなど、1対1でじっくり話を聞いている。それが利用者の誇りやプライバシーを理解することとなり、人としての尊厳を守る対応に結びついている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気作りをし、良い結果が得られるようにと誘導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の申し送りで、今日の予定を話し合っている。その日の天気や、利用者の体調に合わせてその日の過ごし方を考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みを知りさりげなく、コーディネートのアドバイスをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力理解しできる所と一緒に準備、片付けを手伝っていただいている。又音楽を聴きながら食べたり、雰囲気を変えながら食事を食べていただいている。	ホームで育て収穫した野菜を、食材に取り入れている。食材の準備・配膳・下膳・後片付けなど一人ひとりの能力を十分に活かした役割が分担されている。音楽を聴き、会話しながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量をチェック表に記入し、少ない方には、形態を変えたり、食器を食べやすいものに替えたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方は、洗面所誘導、自立できている方は見守りを行っている。		

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行かれる時の時間のチェック表作成し、個々の排泄パターンを把握している。	排泄チェック表の活用により、誘導するタイミングなどを職員が共有することができ、排泄による体調観察にも成果が現われている。紙パンツを使用しなくなった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維が多い食べ物を提供するなど日頃から便秘予防を心がけている。業務の中でも散歩を取り入れるなど軽度の運動する場面も作るように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のペースに合わせて、ゆっくりくつろぎながら入浴できるように配慮している。	2日に1回は、入浴できるよう実施している。毎日希望する利用者には、望み通り実施している。入浴を嫌う利用者には、入りたくなるような言葉かけをしている。ゆったり寛げるよう、浴槽近くに花が飾られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居の際は馴染みの布団、家具等を依頼し自宅での生活に近い状態で入居して頂いている。又利用者様の睡眠パターンを知り、その日の活動や疲労に合わせて昼寝休息を取れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方、情報提供書を利用し、職員は薬の作用、副作用を理解するように努めている。薬の内容が変更すれば、看護師を通じ指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	達筆の方や絵の得意な方に、掲示ポスター作成のお願いしたり、掃除が好きな方には積極的にお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのスーパーへ買物に行き本人が希望されるオヤツを買って頂いている。運動会や春、秋の花、紅葉見物にも出かけている。	週に1～2回利用者と買い物に出かけている。散歩には毎日出かけるよう取り組み、散歩しながら地域との交流や地域のごみ拾いを実施している。花見や運動会など楽しい外出を計画実施している。	

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出にて、買物出来る所ならお金を渡しご自身で購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら年賀状やハガキなど書かれる方は継続できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、四季を感じられるようにしている。その他定期的にエアコン掃除や害虫駆除等を行い清潔に生活できるように支援している。	折り紙で季節の壁飾りなど利用者と職員で作って展示している。掃除が行き届き清潔感のある空間が作られている。共有場所のあちこちに椅子が置かれ、中庭や玄関先には季節の花が育てられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日曜日は、体操等を行わないために、各居室で気の合った利用者様同士コーヒーを飲まれたり、ソファで新聞を読まれたりとそれぞれのペースで過している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室環境は自宅で使用されていた物を出来る限り多く持ってきてもらい、安心感を得られるよう心がけている。	居室の家具などは、暮らしやすいように利用者と家族が考え配置している。居室は、使い慣れた家具や家族写真、作品や花で飾り、安心して寛げる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせて部屋の環境面を見直したり本人が混乱しないよう現在使用しないものなど家族の方に持ち帰るように依頼し、現状の状況に合った生活空間を提供できるようにしている。		